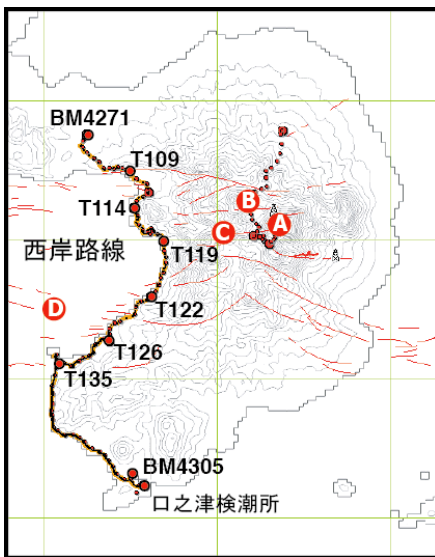


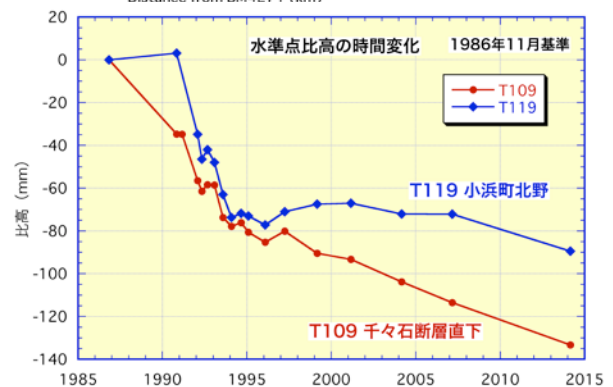
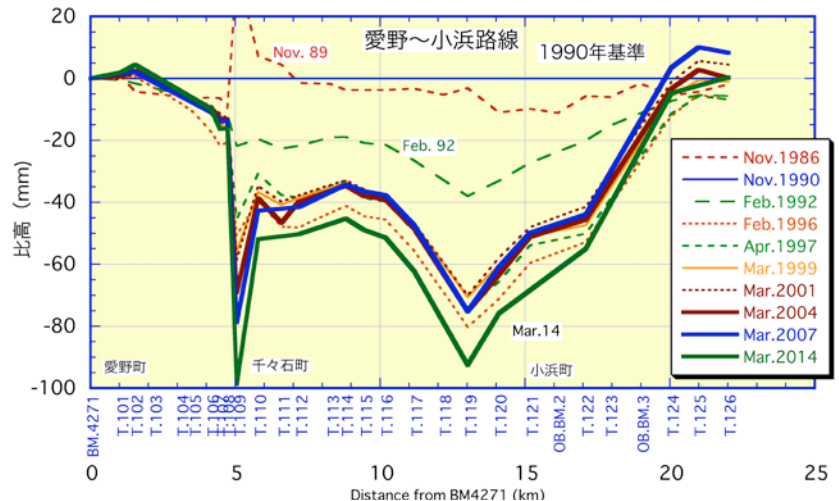
雲仙岳西岸の上下変動

2014年3月に雲仙岳西岸の雲仙市愛野町～南島原市口之津までの約40kmの路線で一等測量基準の水準測量を実施した。雲仙岳では1986年からBM4271～T126間の繰り返し測量が実施されており、2004年以降はさらに南の口之津検潮所まで測線を延長している。

2007年の成果と比較すると、千々石断層より南側で10mm程度の沈降が見られ、さらに圧力源Cに近いT119付近では18mmの沈降となっている。千々石断層直下のT109の局所的な沈降は、地下水のくみ上げによる地盤沈下と推定される。



大学合同観測班の水準路線図。A～DはKohno et. al.による雲仙岳地下の圧力源の位置を示す。



図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50m メッシュ」を使用した

